

## 大井佳子先生は「与える」教員である

人間総合学部子ども教育学科（幼児児童教育学科） 中島 賢介

とうとう大井佳子先生の謝辞を述べなければならぬ時がきました。先生との出会いは、本学の前身である北陸学院短期大学保育学科の専攻科立ち上げの時でした。故大隅恵子学長・学科長の指示の下、学位授与機構に提出する資料作成を、私を含む数名で担当していました。新規採用予定教員の採用理由書については、保育に関する専門知識の乏しい筆者が作成することになりました。「障害児保育」の科目担当者として、大井先生に来ていただくということになり、次のように書いた覚えがございます。

「本学専攻科保育専攻は、より高度な知識・技術を持ち、それを実践に活かすことができる保育者を養成することをねらいとしたものであるため、障害児教育においても高度な知識をもち且つ実践を行っている者が担当する必要がある。大井佳子氏は、言語発達面から障害児に焦点をあてた研究業績があり、言語聴覚士及び学校心理士の資格を有し、金沢大学、富山大学等でも教歴がある。また幼稚園長として幼児教育を行う中で、障害児の統合保育を積極的に進められており、障害児教育の研究会等でも活躍されている。以上の通り専門知識と実践経験の両方を兼ね備える人材であり、本学専攻科の教育目的とも合致すると考えられるため、本講義担当者に採用した。」

残念ながら諸事情で専攻科設立が見送られ、大井先生は金城大学に赴任されることとなりました。しかし、2008年短期大学は小学校教員養成課程を加えて4年制の幼児児童教育学科となり、2011年4月神様のお導きで着任していただくことができました。現在に至るまで、金沢市巡回専門相談員、木の花幼稚園子育て困ったこと相談室室長など、保育臨床をフィールドとしながら教育研究に携わってこられました。さらには保育者養成に重点を置きながらも、本学地域教育開発センターで「あそび場JOJO」「MAGONOTE塾」といった特別支援教育や発達障害支援にもご尽力いただきました。学科では、さまざまな職務分掌の他、学科長補佐としてもお働きくださいました。

個人的には、先生から保育の理念や保育者養成のあり方について折りあるごとにご教示を受けました。思い立ったが吉日、いつも何かを思い出しては私の研究室をノックされ、ご自身のお考えを聞かせてくださいました。ディスカッションしているうちに、いつの間にか数時間が経っていたということもしばしばで、先生にお話を聞いていただいているうちに、自分の主張が明確になったことも多くございました。感謝に堪えません。

ご本人は否定されるかもしれませんが、信仰面においても常にキリスト教保育に強い関心を持たれ、キリスト教保育を通してキリスト教と関わり続けていらっしやいました。来年度も継続される中部学院大学との共同研究の中でその成果が発揮されることと思います。また、気になる子どもや保護者のこと、学生のこと、園や大学のことでもいつも頭の中が一杯で、自分のできることをすべてやり遂げようとするバイタリティの根本には、「受けるよりは与える方が幸いである」（使徒言行録20章35節）があるのではないかと推察いたします。今後も健康が守られ、ますますご活躍されることを心よりお祈り申し上げます。

## 履歴・研究業績 (2020. 3 現在)



氏 名：大井 佳子

所 属：人間総合学部 子ども教育学科

専門分野：幼児教育学 保育者論 保育者養成 発達障害支援 家族支援

担当科目：(本学)

保育原理 地域社会と子ども 総合教養A I・II 教職論 発達支援論 (特別支援教育論)

保育内容・人間関係 I・II 保育課程論 保育内容総論 教職実践演習

幼稚園教育実習指導 I・II 幼稚園教育実習 I・II 基礎ゼミ I・II プロゼミ A

専門ゼミ I・II

### 学 歴

(～2007年 3 月)

1977年 3 月 京都大学教育学部卒業 教育学士

1993年10月 金沢大学教育学部 非常勤講師

1979年 3 月 京都大学大学院教育学研究科教育方法学専攻 教育学修士

「障害児各論」(～1995年 3 月)

1982年 3 月 京都大学大学院教育学研究科教育方法学専攻 (博士後期課程) 単位修得満期退学

1997年 4 月 富山大学教育学部 非常勤講師

「保育内容 言葉」(～2000年 9 月)

1999年 4 月 金沢福祉専門学校 非常勤講師

「保育内容 人間関係」(～2001年 9 月)

### 職 歴

2002年10月 富山大学教育学部 非常勤講師

1979年 7 月 京都府立山城高校定時制 非常勤教諭 「国語」担当 (～1979年10月)

「幼児臨床心理学」(～2004年 3 月)

1982年 4 月 社会福祉法人福角会 幼児通園施設くるみ園 心理判定員 (～1983年12月)

2007年 4 月 学校法人金城学園金城大学社会福祉学部こども専攻 教授 (～2011年 3 月)

1982年 4 月 愛媛大学法文学部 非常勤講師 「教職教育心理学」(～1982年 9 月)

2011年 4 月 北陸学院大学人間総合学部幼児児童教育学科 教授 (現在 子ども教育学科)

1984年 4 月 石川県親子通所センター 嘱託 言語指導員 (～1988年 3 月)

2011年 4 月 金沢大学学校教育学類 非常勤講師 「保育学概論 (家庭看護を含む)」

1988年 4 月 学校法人木の花幼稚園 副園長 (～1989年 3 月)

(～2011年 9 月)

1989年 4 月 学校法人木の花幼稚園 園長

## 学会等における活動・役職歴

- 1998年4月 (社)石川県私立幼稚園協会 理事・  
研修委員長(2006年4月より副理事  
長)(~2007年3月)  
2002年4月 全日本私立幼稚園連合会 教育研究  
委員会委員(~2004年3月)

## 社会貢献・活動

- 2005年4月 NPO法人アスペの会石川ディレクター  
(2011年4月よりアドバイザー 現  
在に至る)  
2005年4月 金沢エルデの会アドバイザー(現在  
に至る)  
2007年4月 金沢市教育プラザ巡回専門相談員  
(現在に至る)  
2007年4月 木の花子育て困ったこと相談室室長  
(金沢市夢ステーション事業 現在  
に至る)  
2008年4月 石川県私立幼稚園協会研修事業にお  
ける共同研究:石川県私立幼稚園協  
会グループ研究「発達から保育を考  
える」(平成20年度・21年度)、「保  
護者との関わりを考える」(平成23  
年度・24年度:全日本私立幼稚園東  
海北陸地区研究大会「特別支援教育  
分科会」話題提供)、「合同まなび研」  
(平成25年度・26年度:同上石川大  
会特別分科会のための研究プロジェ  
クト)、「遊びって何だろう研究会」  
(平成28年度・29年度:同上大会「遊  
びの意味と育ちへの繋がり」分科会  
話題提供)に、保育者が自身で研修  
をつくるプロジェクト  
2009年4月 「自閉症に優しい社会」に関する共  
同研究:科学技術振興機構の社会技  
術開発センター研究プロジェクト  
「自閉症に優しい社会:共生と治療  
の調和の模索」に幼児教育研究者と  
して参画。県内私立幼稚園からの話  
題提供、幼稚園保護者によるサイエ  
ンスカフェ等を担当(~2013年3月)  
2012年6月 あそび場JOJOを主宰(北陸学院  
大学地域教育開発センター事業 現

在に至る)

## 学内における貢献(主な役職・その他)

- 2016年4月 北陸学院大学教員業績表彰 「社会  
・地域貢献」領域  
2017年4月 子ども教育学科学科長補佐(~2019  
年3月)

## 業 績

### 著 書

- 1)『子どもと話すー心が会えるINREALの会話  
支援』共著 2004年 ナカニシヤ出版 大井  
学・大井佳子(編)
- 2)『その名もかんばしき木の花幼稚園にて』  
共著 2005年 木の花幼稚園(非売品)
- 3)『幼稚園教諭 はじめの3年間QA事典』  
部分執筆 2008年 明治図書 竹井史(編)
- 4)『保育内容 言葉(新保育シリーズ)』共著  
2009年 光生館 秋田喜代美・野口隆子(編)
- 5)『特別支援教育における言語・コミュニケー  
ション・読み書きに困難がある子どもの理解  
と支援』共著 2009年 学苑社 大伴潔・大  
井学(編)
- 6)『遊びづくりの達人になろう!子どもが夢中  
になってグーンと成長できる 3歳児の遊び  
55』『遊びづくりの達人になろう!子どもが  
夢中になってグーンと成長できる 4歳児の  
遊び55』『遊びづくりの達人になろう!子ど  
もが夢中になってグーンと成長できる 5歳  
児の遊び55』共著 明治図書 2011年 竹井  
史(編)
- 7)『実践的保育原理』共著 2012年 三晃書  
房 上野恭裕(編)
- 8)『保育現場と養成校のコラボレーション!  
実習指導サポートブック』部分執筆 2013年  
北大路書房 開仁志(編)
- 9)『現場の視点で学ぶ保育原理』共著 2016年  
教育出版 上野恭裕・大橋喜美子(編著)

### 学術論文

- 1) 修士論文「読み能力と継時情報能力との関係  
についての発達の検討」1979年 京都大学大  
学院教育学研究科

- 2) 「人間の情報処理における同時総合と継次総合」1981年 『京都大学教育学部紀要』27号 pp.159-171
- 3) 「ATIによる読み過程分析の試みー児童の読みに及ぼす挿入質問の効果ー」(査読付き) 1981年 『読書科学』25巻1号 pp.11-19
- 4) 「言語獲得の前提：状況的役割を準備するもの」共著：大井学・大井佳子 1982年 『愛媛大学教育学部障害児教育研究室研究紀要』6号 pp.23-47
- 5) 「渡し手と受け手との対話における不適切な語の使用への介入」(査読付き) 共著：大井学・大井佳子 1986年 『教育心理学研究』34巻1号 pp.48-54
- 6) 「話しことばを自分のものにするー言語指導として、やりとりゲームと文型獲得のための手がかりを組織した事例ー」1987年 『石川県親子通所センター紀要』 pp.24-40
- 7) 「不適切な発話をもたらした指導者ー子供の交互作用」(査読付き) 共著：大井学・大井佳子 1989年 『聴覚言語障害』17巻3号 pp.113-119
- 8) 「金沢市における幼稚園の設立と展開1ー明治後期に創立した私立木の花幼稚園の事例を中心にー」2008年 『金城大学紀要』第8号 pp.185-200
- 9) 「4年制での保育者養成における幼稚園教育実習指導試案(1)ー幼稚園現場との協働の模索ー」2013年 共著：大井佳子・吉田若葉 『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』第5号 pp.1-14
- 10) 「4年制での保育者養成における幼稚園教育実習指導試案(2)ー実習生の指導計画を通して見えた幼稚園と大学の実習像ー」2015年 共著：大井佳子・熊田凡子・向出圭吾 『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』第7号 pp.11-25
- 11) 「保育現場と養成課程の接続ー『幼稚園ってどんなところ?』(石川県)への学生参加からー」2016年 共著：大井佳子・鮎川正 『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』第8号 pp.1-11
- 12) 「子どもの育ちの連続性を支えるー幼児・低学年児を参加対象とする“あそび場JOJO”からの考察」2016年 『教職課程研究』第1号 pp.25-34 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程運営部会
- 13) 「幼小接続を支える保育者・教員に必要な資質の育成に向けて」共著：金丸洋子・大井佳子 2016年 『教職課程研究』第1号 pp.35-43 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程運営部会
- 14) 「養成段階から育む保育者の協働性ー立場の異なる者と対等な討議をつくる力ー」共著：大井佳子・向出圭吾 2016年 『教職課程研究』第2号 pp.9-14 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程運営部会
- 15) 「幼児期の遊びと算数・数学の接続に関するー考察ー大型木製積木の遊びに焦点をあててー」共著：下村岳人・大井佳子 2016年 『教職課程研究』第2号 pp.43-48 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程運営部会
- 16) 「自閉性スペクトラム障害児における幼小接続の課題ー『引継ぎ』事例における合理的配慮と連続した学びの保障の検討ー」2017年 『教職課程研究』第3号 pp.13-18 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程運営部会
- 17) 「算数科における幼小接続のあり方に関するー考察ー幼児の等分除の発見場面を事例としてー」2016年 共著：下村岳人・大井佳子 『教職課程研究』第3号 pp.35-40 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程運営部会
- 18) 「遊び込む子どもの姿を理解する保育者であるためにー石川県私立幼稚園協会の協働的保育者研修ー」共著：大井佳子・山岸日登美 2016年 『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』第9号 pp.1-14
- 19) 「発達障害に対する学校における合理的配慮ー異なる立場の人たちによるラウンドテーブルからの論点整理ー」共著：田中早苗・大井佳子 2019年 『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』第9号 pp.261-274
- 20) 「『保育内容 人間関係』の授業設計の試みー

- ノンバーバルで進める模擬保育ー」2018年『教職課程研究』第5号 pp. 5-10 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程運営部会
- 21) 「幼児期の対話的な学びーモノとの対話と人との対話、その往還からー」2018年『教職課程研究』第6号 pp. 1-6 北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部教職課程運営部会
  - 22) 「幼児期における合理的配慮と個別的な教育的支援」2019年『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』第11号 pp. 153-161
  - 23) 「保育者の協働による個別指導計画作成手順の開発ービデオ・トークと写真ウェブ図を用いた子どもの学びの読み取りー」2020年『北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要』第12号
  - 24) 「統合保育からインクルーシブ保育・教育への展開のための実践的視点ー大学間連携共同研究(1)ー」別府悦子・大井佳子・水野友有・谷昌代・ダーリンプル規子・平野華織・山田丈美・斎藤英俊・西垣吉之 2020年『中部学院大学・中部学院大学短期大学部 研究紀要』第21号
  - 25) 「インクルーシブ保育・教育を担う加配保育者のあり方ー大学間連携共同研究(2)ー」平野華織・谷昌代・大井佳子・別府悦子・水野友有・ダーリンプル規子・西垣吉之 2020年『中部学院大学・中部学院大学短期大学部 研究紀要』第21号
  - 26) 「インクルーシブ保育・教育をキリスト教保育・教育の視点から考えるー大学間連携共同研究(3)ー」ダーリンプル規子・中島賢介・大井佳子・谷昌代・志村真・別府悦子 2020年『中部学院大学・中部学院大学短期大学部 研究紀要』第21号
- 2) 「チームワークで盛り上がる集団あそびセレクション」2005年『幼児の指導 ラボム』2月号 pp. 10-15
- 3) 「実習生の『?』をみんなで考えよう」2005年『幼児の指導 ラボム』11月号 pp. 33-37
- 4) 「その園その園の当たり前で何気ない日常に、地域が織り込んだ『育ちの資源』がある」2009年『現代と保育』73号 pp. 50-59
- 5) 「『やりたい気持ち』があふれ出るー斉でない『設定保育』の形」2010年『現代と保育』77号 pp. 34-45
- 6) 「私のもやもやまあるく晴れた」No.6~No.10 2011年『日本教育新聞』
- 7) 「遊び~子どもは空間を遊ぶ~」2015年『全日本私立幼稚園連合会平成26年度東海北陸地区教育研究石川大会記録』pp. 83-87 共著：大井佳子・「空間を遊ぶ」分科会運営チーム
- 8) 「幼稚園の親たちがつくりだしたピア・サポートのシステムー木の花幼稚園の親たちの歩みからー」2016年『レッツ特別支援』14号 pp. 2-7

#### 学会発表

- 1) 「児童の読みにおける質問挿入の効果」1980年『日本教育心理学会総会 発表論文集』pp. 650-651
- 2) 「読み能力と継時情報処理能力との関係についての発達の検討」1981年『日本教育心理学会総会発表論文集』pp. 764-765
- 3) 「Temporal Orderingと潜在的ラテラルリティ」1982年『日本心理学会発表論文集』pp. 221 共同発表：安丸廣・大井佳子・坂野登
- 4) 「語用論的未発達を示す幼児の役割行為の形成ー『ドウゾ』『アリガトウ』の文脈適切性を中心にー」1983年『日本教育心理学会総会発表論文集』pp. 338-339 共同発表：大井学・大井佳子
- 5) 「生後2年目における大人の『はいーいいえ』質問に対する応答の成立」1989年『文部省科学研究費補助金63年度重点領域研究発表資料』共同発表：大井学・大井佳子

#### その他

- 1) 「コミュニケーションの糸口をさぐるー遅れの軽い自閉的な子どもの場合ー」1999年『発達教育』5月号 pp. 14-15・6月号 pp. 14-15

- 6) 「お母さんのための『勉強会』からお母さんたちの『勉強会』へ ―スクールサイキロジストとして親の集まりに関わって―」1997年 『全日本特殊教育研究連盟全国大会（石川大会）』 p.37
- 7) 「石川の研修スタイルの模索」2010年 『全日本私立幼稚園幼児教育研究機構幼児教育実践学会』共同発表：石川県私立幼稚園協会のプロジェクトチーム（代表 山岸日登美）・大井佳子
- 8) 「学生と新卒保育者との相互交流に関する研究―『新卒者と語り合う会』を通して―」2012年 『全国保育士養成協議会第51回研究大会』共同発表：中島賢介・大井佳子
- 9) 「保育者養成(養成校との協働)」2015年 『全日本私立幼稚園幼児教育研究機構幼児教育実践学会』共同発表：石川県私立幼稚園協会(研究代表 鮎川正)・大井佳子
- 10) 「発達障害に対する学校における合理的配慮―不登校児童生徒の保護者によるラウンドテーブルから―」2018年 日本特殊教育学会第56回大会発表論文集 共同発表：田中早苗・大井佳子